

広告

「働き方改革」あなたの会社でも

多様な働き方を自分で選べる社会を目指す「働き方改革」。働く人が、より良い将来の展望を持てるようになり、社会全体で、成長の成果を人々に届ける成長と分配の好循環につながります。これは「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「働く方々のニーズの多様化」といった課題に対応するためにも重要なこと。人手不足解消や生産性向上にもつながることから個々の企業でも導入が進んでおり、働く人もメリットを感じています。

仕事が
しやす
くなった

職場の
風通しが
よくなった

生産性が
上がった

働く意欲が
高まった

経営層の
信頼度向上

人材流出の
予防

たくさんのメリットがあります

できることから始める

非正規雇用
の処遇改善

賃金引上げと
労働生産性
向上

長時間労働
の是正

柔軟な
働き方

女性・若者の
人材育成

病気の治療
と仕事の両立

子育て・
介護等と仕事
の両立

転職・
再就職支援

教育環境
の整備

高齢者の
就業促進

「今こそ働き方改革を」

ワーク・ライフ・バランス
小室淑恵社長



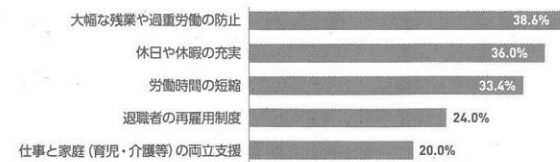
働き方改革に取り組む会社は中小企業を含め、この2年ぐらいで急速に増えていきます。人手不足が深刻化し、働き方改革なしに人を採用することが難しくなっているからでしょう。

働き方改革を本格的に始めた経営者の多くが以前に比べて社員が仕事に対して主体的になったと、その変化に驚きます。仕事の効率性について自分たちで考えて、話し合う場を持つことで時間に対する意識が上がり、ひいては利益や経営についても考えるようになるのです。約1000社をコンサルしてきましたが、ある58人の企業では、なんと従業員同士で勉強会を開き、前年よりも有給取得数を3倍にしながら売上を2倍にしました。

大きなお金をかける必要はなく、部署内で「有給を取ったら何をしたいか」を各自が出し合い、そのためにどうするか考えるところから働き方改革につながります。社会的な気運が高まり、お客様や取引先の理解を得やすい今こそ、取組を進めるいい機会です。

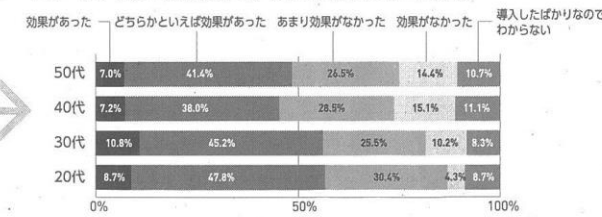
働き方改革に取り組んでいる全国中小企業の従業員700人に聞きました「2019年1月 PR総研によるインターネット調査より」

働き方改革としてあなたの会社が取り組んでいることはどんなことですか。(複数回答、上位5項目)



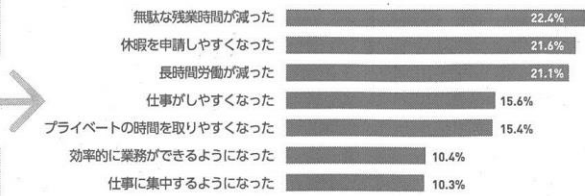
取組内容で最も多かったのは「大幅な残業や過重労働の防止」で38.6%、次いで「休日や休暇の充実」36.0%でした。

働き方改革を導入したことにより、あなたご自身について、良い効果があったと感じますか。



「効果があった」「どちらかといえば効果があった」を合わせると約半数の方が効果を感じています。特に20代、30代はそれぞれ約56%と、若い世代ほど効果を大きく感じています。

働き方改革を導入したことにより、会社にどのような効果があると感じていますか。(複数回答、上位7項目)



具体的な効果として挙げたのは「無駄な残業時間が減った」「休暇を申請しやすくなった」など。効率的な業務や仕事への集中度アップにもつながる結果となっています。

働き方改革地元企業の取組事例

医療法人協愛会阿知須共立病院 (山口県山口市)

理事長・病院長：三好 正規 さん



三好 さん



職員の意識改革で魅力ある職場へ

病院長は「職員は家族との時間を大切に、健康で充実した人生を過ごしてほしい」と語る。職員のワーク・ライフ・バランスを大切にする理念に基づき、働き方改革を通じた「魅力ある職場づくり」に取り組んでいる。

子育て支援、長時間労働削減の機運を高めるため、主体的な業務改善活動を推進し、職員への意識付けを図る。

2018年1月から若手・中堅職員による職場環境の改善に向

けたプロジェクトチームを立ち上げ、「職員何でも相談窓口」の設置や休日増などを実現。17年度の有給取得率は61.7%(前年度比4%増)、常勤職員の離職率9.9%(同1.5%減)と改善した。継続的な取組は徐々に認知され、職員の新卒応募者増にもつながっている。

日新運輸工業株式会社(山口県下関市)

代表取締役社長：松浦 秀子 さん



松浦 さん



安心で魅力のある職場に

貨物運送業や通関業などを手掛ける同社は、人口減少が進む県内で安定した人材を確保するため、魅力ある職場づくりに取り組んでいる。

2018年4月には社員が育児と仕事の両立を図り、安心して働けるため企業内保育所「ひなざく保育園」を開設。現在、0～2歳の乳幼児10人が通っている。経済的負担の軽減に加え、子どもを預けた社員からは「すぐに連絡がとれるので不安なく仕事ができる」など好評だ。

社員の健康促進のため、定期的な運動指導も行っている。参加者からは「思った以上にいい汗をかいだ」などの声が聞かれた。作業効率を高める目的でIT(情報技術)化やロボット化を考える一方、社員が気軽に集まって話せる施設や同好会活動など福利厚生も充実させ、誰もが働きやすく県内外から入社してもらえる環境を整えていく。